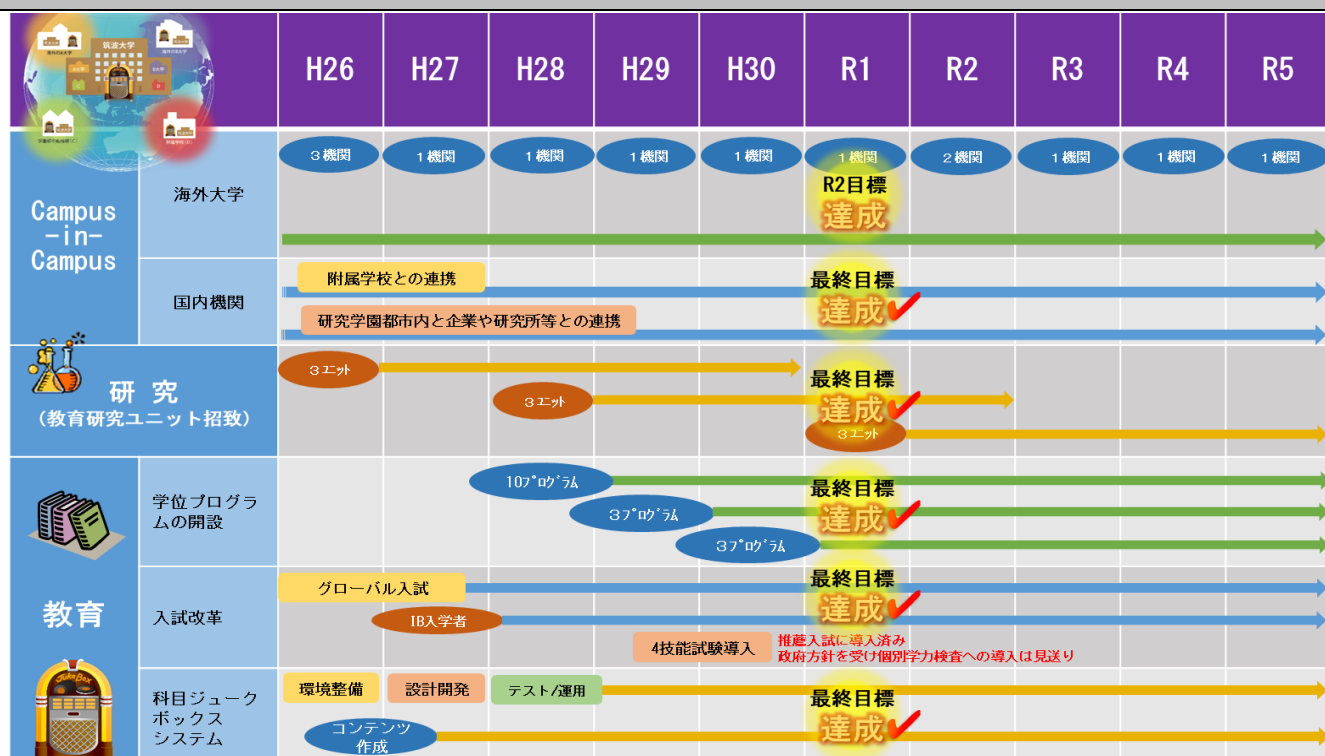


進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】



○教育力強化：全体として目標を上回っており、優れた実績を上げている。

Campus-in-Campus(CiC)の整備については、R2年度までの目標を前倒しで達成した。科目ジュークボックスの構築・運用、国際的互換性と国際就業力を担保する革新的な教育プログラムの開設、入試改革(4技能試験導入を除く)については、最終目標を前倒しで達成した。これにより下記のアウトカムが得られた。

- ☞ 学生の多様性と流動性が向上した。(根拠：4人に1人が留学生、年間2,000人の学生を海外派遣)
- ☞ 国際的互換性のある教育システムが構築された。(根拠：学位プログラム制への全学的移行)
- ☞ 社会のニーズに応える人材育成が進んでいる。(根拠：日経就職力ランキング2019総合1位)

○研究力強化：全体として目標を上回っており、優れた実績を上げている。

海外教育研究ユニット招致については、最終目標を達成した。重点研究センターと学術センターの設置と重点支援、国際テニユアトラック制度、URAの戦略的配置等により、研究大学強化促進事業の中間評価でA評価を受けた。これにより下記のアウトカムが得られた。

- ☞ 多様な分野の強化と協働が推進された。(根拠：研究循環システム、海外教育研究ユニット招致)
- ☞ イノベーション型研究の推進が推進された。(根拠：R1年度大学発ベンチャー資金調達額が74億円)
- ☞ 国際共同研究が推進された。(根拠：国際共著論文がH25年度28.1%からH30年度31.5%に増加)

○ガバナンス改革：全体として目標を達成しており、順調な実績を上げている。

学長を中心に大学執行部が全員参画するスーパーグローバル大学事業運営委員会が司令塔となって、研究戦略イニシアティブ推進機構による学内資源の選択と集中や、全学戦略人事ポイントを活用した外国人・女性・若手教員の採用を積極的に進めている。また、グローバル・コモンズ機構にグローバル・スタッフ育成室を設置し、各種研修を展開している。これにより下記のアウトカムが得られた。

- ☞ 包括的国際化が前進した。(根拠：グローバル教育院、WPI、グローバル・コモンズ機構等におけるPDCA)
- ☞ 学長のリーダーシップの下に学内リソースの集約が進んだ。(根拠：ヒト・カネ・モノの選択と集中)
- ☞ 世界の教育研究リソースの活用が進んだ。(根拠：CiC協定校とのPI、学位プログラム、授業科目の共有)

○財政支援期間終了後を見据えた自走化の進捗状況

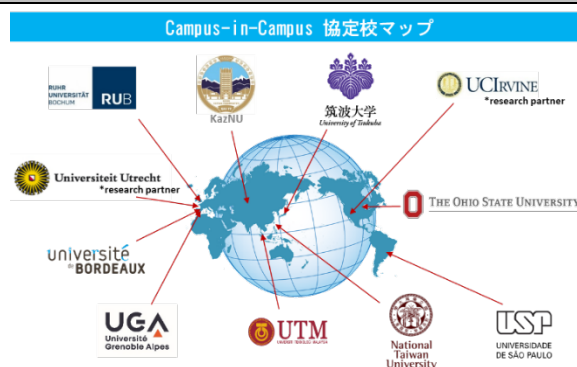
効率化による経費削減に加え、学内予算への内在化(CiC協定校開拓経費、海外教育研究ユニット招致に係る経費、科目ジュークボックスシステム運用経費等)、外部資金の活用(筑波会議への寄附・協賛金等)、プログラムフィーの徴収(CiC協定校からの留学生の短期受入)など、補助金以外の多様な原資による事業運営が計画的に進んでいる。財政支援期間終了後に向け、CiC協定校数、海外教育研究ユニット数、若手研究者の採用等について現構想を上回る目標を既に学内決定しており、発展的自走化が確実と判断される。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

■Campus-in-Campus (CiC)

CiC は、国境や機関の壁を超え、世界中の資源を積極的に活用したトランスボーダーな教育研究を実施するプラットフォームである。学生、教職員の円滑な移動、人数制限の無い交換留学、相互オフィスによるサポート体制を構築している。筑波大学のキャンパスを海外パートナー大学の中に創り出し、海外パートナー大学のキャンパスを筑波大学の中に創り出すことによって、**世界の大学がキャンパスになる**。R2 年度からは、オンラインによる学生交流も開始する。

これまでにボルドー大学、国立台湾大学、カリフォルニア大学アーバイン校、サンパウロ大学、マレーシア工科大学、ユトレヒト大学、グルノーブル・アルプ大学、オハイオ州立大学、ボーフム大学、アルファラビ・カザフ国立大学と CiC 協定を締結し、**科目ジュークボックスによる授業科目の共有**、**ジョイントディグリープログラムの開発**、**世界トップレベルの教育研究ユニットの相互共有**などを推進している。また、全ての CiC 協定校に職員を派遣し、5 校から職員を受入れている。CiC 協定校同士が CiC 協定を別途締結するなど、本学の取組が海外の大学にも波及し、**マルチラテラルな教育研究アライアンス**に発展している。



■科目ジュークボックス (CJ)

CJ は、大学の壁を超えて授業をコードシェアする独自のシステムである。本学及び CiC 協定校が科目を提供し、学生はどの大学の科目でも自分の大学の科目として履修できる。

学生のモビリティを高めるため、システムに登録する科目は現地で履修する科目を基本としてきたが、コロナ禍を受けて、オンライン授業、COIL 型コンテンツ、Blended Learning への対応を進めている。

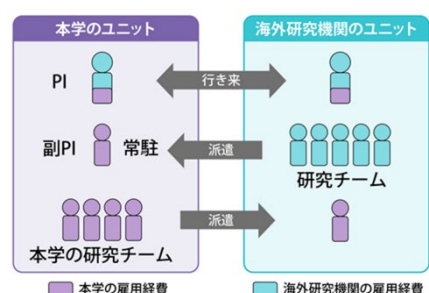
H27 年度に本学の科目を登録し、H28 年度にはボルドー大学、国立台湾大学、H29 年度にはサンパウロ大学、マレーシア工科大学、R1 年度にはグルノーブル大学、カザフ国立大学の科目を追加した。R1 年現在約 **2,800 科目**が登録されており、学生は「世界がキャンパス」であることを実感している。



<https://c.j.tsukuba.ac.jp/>

■海外教育研究ユニット招致

本学において強みのある研究分野を一層強化し、それを大学院教育に波及させるため、**海外の一流機関から卓越した外国人研究者をクロスアポイント等で招へい**し、彼らのラボを本学内に開設した。研究戦略イニシアティブ推進機構が5年ごとに評価を行い、その結果に基づいてユニットの入れ替えを行っている。



- ①ハンブルグ大学：アジア・アフリカ研究所インド学チベット学研究室
- ②ライデン大学：メディカルセンター分子細胞生物学研究室
- ③オーフス大学：材料結晶学研究室
- ④プリマス大学：海洋酸化性・国際海洋フィールド学研究室
- ⑤グルノーブル・アルプ大学：理工学教育研究ユニット
- ⑥カリフォルニア大学アーバイン校：スポーツ・ニューロサイエンス・グローバル・リサーチ・イニシアティブ
- ⑦ソウル国立大学：ニュートリノ科学研究センター研究室

⑧エモリー大学：センター・フォー・ソーシャル・ニューラル・ネットワークス

⑨ユトレヒト大学：クォーク・グルオンプラズマ研究室

■世界大学ランキング

最新の「創立 50 周年未満の大学ランキング」、「最も国際的な大学ランキング」及び「大学インパクトランキング」において、本学の研究力・教育力・国際性が以下のとおり評価された。

- 創立 50 周年未満の大学ランキング (QS) : **世界 24 位** (国内 1 位)
- 最も国際的な大学ランキング (THE) : **世界 133 位** (国内 2 位)
- 大学インパクトランキング (THE) : **世界 101-200 位** (国内 4 位)